

壹岐國續風土記鈔

序例 目録
提要上

庫	文	閣	内
毛	三	九	和
一	〇	八	書
三	冊	號	類
架			

内務省圖書
第一一〇六七號
和書部地理類
函冊

和	書	門
二	九	一
一	七	〇
〇	二	八
冊	架	函
類	號	類

地
五
七

内閣文庫	番號	和	2939
	冊數	10	(1)
	函號	178	116



Kodak Gray Scale
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak





一 壹岐國續風土記

記鈔

界周圍及山川原野池堤坂辻島嶼瀨崎等間

數里程并歲額戸口舟船牛馬ノ負ニ至ル總テ

壹岐名勝圖誌ト大同小異ナキニアラズ然レ

氏名勝圖誌後年ノ撰ナレバ較精數ニ屬ス依

テ之ヲ全寫シ其或ハ載セザル所アレバ抄寫

シテ以テ参考ニ備フ但文義複出也ザルハ明

ラカナラザル有ハ重抄ヲ免カレズ



一 序目并卷第一二ノ如キハ全写シ其他悉ク鈔
録ス神社佛閣ノ如キ祭神及ヒ開基創建年月
等名勝圖誌ノ洩セルハ抄シテ以テ同誌ノ鼈頭
ニ記ス且石窟ノ如キハ若干アリト雖トモ其
説竒怪ニ涉ルヲ以テ抄セズ

一 目錄ハ他日全書ノ體裁ヲ考證スル為メ之ヲ
全写シ鈔出スル者ハ朱圈ヲ加ヘテ以テ觀覽
ニ便ニス

一 此書寛保二年壬戌壹岐國大宮司常陸介吉野
秀正撰シ明治六年九月三日正四位松浦詮ノ

藏書ヲ出サシメテ抄写ス名勝圖誌モ亦同人
藏書ナリシヲ謄写シテ本課ニ備フ

明治七年五月九日
正院地誌課
少主記布施讓校

割つた質國を置好ししより以來六千六州二島
とあり

成啓天皇五年秋九月諸國より一以て國郡
の造長を立縣邑を稱置を置並しし指牙を
賜して以て去りし別山河を隔して國郡分
汗而小池を以て邑里を定め因以て東西を日從
りし南北を日横りし山陽を影西としし山法
を背西とし是を以て百姓安居天下事な
しと云つり此れよりして後國郡の官員是を
備えり

履中天皇四年より至り始て諸國より國史を置兼
云事を記し四方の志を被りしむ

元明天皇和銅六年歲丙申通の諸國郡々の名
は好き字を著し其郡のよみ生さる所の銀銅
彩色茅木禽獸魚虫等々の物に具さる色目及
其花の波壻山川原野の名号所由を録せしむ又
古老相傳ふ事旧聞異事ハ史籍より載て云上
と

元武天皇長三年より至り官符を諸國より下
し凡土記の文を勅へ進らしむ凡六年風土記

成しんも惜むらくハ予記教述しんて金書世
子傳ら以今終よ故せる所半よ是是是はら奈
衣の御門の傳代同よ傳くか志め終ふ三き
書素らん以今終よ是北を詳よせし然れとも國
郡佐古の支何よ捉てつそ六師を觀ふつそ
その終よ故せる有てその申よ校察を見らし品
り今世情國の志又ハ續風志元ちふふみを著
て考索子傳りた言これを小補としを
んや不傳ナニヲよ

邦君の命をうきて國の中里々を遍くめぐり

高き山よもり深き谷よ入りあやうに海路よ浮
む邑ホとの土民等よ其前ハ戎尋手向じ見し
事聞しホともかわり替中よも余りに公交
せらんとおもひまは佐是ふくたつひその
際を三せしもあり也此とも又俚俗の傳ともその
ま推り用じしも少らうを是よかふらよ予が
若うりし時より見そるもせし古き記の中よ
がよあるべき事実名所の和奇ヤんと抄出せ
しを裁せ又國よ傳つし古き記録祀部もが
家々の文仏刹よ花めし祀よ書畫くかいり

集巻編を^り——志波國續風土記と号し^て
邦君の御符は^り敵りぬ今年二月一葉は^り
一の海を渡り平戸に^り生 邦君又命して
さきよ^り著^る所^のさて波國續風土記の提要を撰
^らしむ^る不^得 素^{より}平^野朴^野の人生の^り撰^り
し^て才^短く^思い^ます^こ堂^官の^り勅^めを^はげ^ます^さ
を^り玩^古の^り切^はく^るや^れい^うん^そを^り平^野に^り
らん^ん況^字旅^の字^のつ^ちつ^然を^あき^り後^い甘
む^るく^もい^らる^を平^野に^り遺^る之^の葉^眼に^り
る^実も^もお^もを^りふ^く筆^子に^りあ^つて^り略^り記

集めて^りけ^ちお^く編^る又^り懶^るま^き備^出の^り提要
の中^に裁^ぎ——回^司方^護等^の事^に至^るハ^り諸^邑の
記^と粗^齟鋸^ぎせる^のあり^しは^り中^の三^しも^のを
以^て提要^に裁^ぎせ^ぬち^のり^と虫^氏俗^のを^り布^てる^中
實^{あり}らん^も知^るる^る秘^はも^うさ^はん^是を^り諸^邑
の^り記^に裁^ぎせ^て以^て後^の考^に備^へぬ^はに^り於^て功
が^りて^る初^合ち^て百^十八^卷に^り——又^りその^中を
み^つは^らふ^ち初^り二^の卷^をて^てを^り序^目録^提要
——三^卷より^り百^十六^卷まで^をを^り志^波石^田二^郡
の^り記^に——百^十七^卷を^り土^産考^とせ^りう^らく^り綴^りま

とや一ツも博雅の士たじ寛て吞舟の魚の
細子もまなる及烏系馬の遠いいかしのあま
顛倒脱字なりんと毫哉哉ておれを訂正すは惟
大幸なりん

寛保 壬戌孟夏天教日

吉波州後学大宮司常陸以吉野連秀正
採毫於肥前州平壺府白濱旅舎

壹波國續風土記目錄

○卷之一

提要

○卷之二

提要

○卷之三

吉波郡可須邑

郷邑之部

○卷之四

郷邑之部

○卷之五

御邑之部

卷之六

神社之部

○卷之七

神社之部

○卷之八

仙摺之部

○卷之九

壹岐郡新城邑

御邑之部

卷之十

神社之部

卷之十一

神社之部

○卷之十二

仙摺之部

○卷之十三

吉政郡箱崎邑

御邑之部

卷之十四

御色之部

○卷之十五

御色之部

○卷之十六

御色之部

卷之十七

御色之部

卷之十八

神社之部

卷之十九

神社之部

卷之二十

神社之部

卷之二十一

神社之部

卷之二十二

神社之部

卷之二十三

神社之部

卷之二十四

神社之部

卷之二十五

神社之部

卷之二十六

仏閣之部

○卷之二十七

志岐郡本宮邑

郷邑之部

卷之二十八

郷邑之部

卷之二十九

神社之部

卷之三十

仏閣之部

○卷之三十一

志岐郡布氣邑

郷邑之部

卷之三十二

神社之部

卷之三十三

仁桐之部

○卷之三十四

壹岐郡國分邑

○卷之三十五

仁桐之部

○卷之三十六

神社之部

○卷之三十七

壹岐郡中野御邑

○卷之三十八

仁桐之部

○卷之三十九

神社之部

○卷之四十

仁桐之部

○卷之四十一

壹岐郡川北邑

○卷之四十二

仁桐之部

神社之部

卷之四十二

仁桐之部

○卷之四十三

吉波郡 清吉村

御色之部

○卷之四十四

御色之部

卷之四十五

神社之部

卷之四十六

神社之部

卷之四十七

神社之部

卷之四十八

仁桐之部

卷之四十九

仁桐之部

○卷之五十

吉波郡 深江邑

郷邑之部

○卷之五十一

神社之部

卷之五十二

佛摺之部

卷之五十三

佛摺之部

○卷之五十四

壹岐郡湯岳邑

郷邑之部

○卷之五十五

神社之部

卷之五十六

神社之部

卷之五十七

仏摺之部

○卷之五十八

壹岐郡立石邑

郷邑之部

○卷之五十九

○ 郷邑之部

卷之六十

神社之部

○ 卷之六十一

神社之部

卷之六十二

仏摺之部

卷之六十三

仏摺之部

○ 卷之六十四

壹岐郡佐吉邑

石見郡邑之部

卷之六十五

神社之部

○ 卷之六十六

神社之部

卷之六十七

仏摺之部

卷之六十八

石田郡初山邑

石田郡 郷邑之部

卷之六十九

神社之部

卷之七十

仙槲之部

○卷之七十一

石田郡 初山邑 属邑 津甫村

郷邑之部

卷之七十二

神社之部 附 仙槲之部

○卷之七十三

石田郡 武生水邑

郷邑之部

○卷之七十四

郷邑之部

卷之七十五

神社之部

卷之七十六

神社之部

卷之七十七

仙槲之部

卷之七十八

仙槲之部

卷之七十九

仙槲之部

○卷之八十

石田郡渡良邑

御邑之部

○卷之八十一

御邑之部

卷之八十二

神社之部

卷之八十三

仙槲之部

○卷之八十四

石田郡渡良邑尾邑大嶋村

御邑之部

卷之八十五

神社附仙槲之部

○卷之八十六

石田郡半城邑

郷邑之部

卷之八十七

神社之部

卷之八十八

神社之部

卷之八十九

仙摺之部

○卷之九十

石田郡物部邑

御邑之部

卷之九十一

神社之部

卷之九十二

神社之部

○卷之九十三

仙摺之部

○卷之九十四

石田郡長岑邑

郷邑之部

卷之九十五

神社之部

卷之九十六

仙槌之部

○卷之九十七

名田郡長岑手邑扇邑有安村

郷邑之部

卷之九十八

神社之部

卷之九十九

仙槌之部

○卷之百

石田郡黒崎邑

郷邑之部

○卷之百一

神社之部

卷之百二

仙槌之部

○卷之百三

石田郡筒城邑

御邑之部

卷之百四

神社之部

卷之百五

仏櫛之部

○卷之百六

石田郡石田邑

御邑之部

卷之百七

御邑之部

卷之百八

神社之部

卷之百九

仏櫛之部

○卷之百十

石田郡石田邑属邑妻島

御邑之部

○卷之百十一

石田郡池田邑

御邑之部

卷之百十二

神社之部

○卷之百十三

仙槌之部

○卷之百十四

石田郡志原邑

郷邑之部

卷之百十五

神社之部

卷之百十六

仙槌之部

○卷之百十七

土産考

卷之百十二

神祇之部

卷之百十三

仙傳之部

卷之百十四

百四部之部

御志之部

卷之百十五

○卷之百十六

卷之百十七

壹岐國續風土記卷之一

提要卷之上目錄

惣論

國中民戸數

國中麴家數

國中社領高

國中船數

國中田畠高

國中人數

國中神社

國中寺領高

關門烽候

段別石高

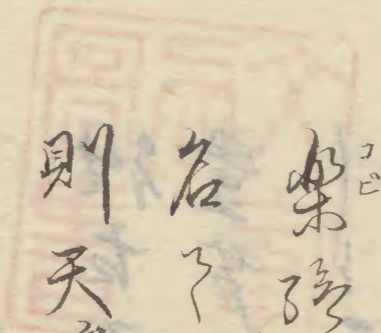
國中酒家數

國中佛刹

國中馬牛數

行程

獲たりタケ忽タケ然コト東コトへ一コト獲トふコトをコト生タきたコトたコトるコト也
其コト身コト祥コト此コト滴コト港コト霧コト漸コト下コトりコトしコトりコト漸コト下コトりコトしコトりコト
嶋コトとコト於コト留コトるコト身コト密コト嶋コトとコト以コト婦コト引コト昇コトるコト神コト性コト悦コト
樂コト臨コト上コト事コト何コト里コトをコト所コト持コト霧コト立コト下コトりコト嶋コトとコト名コトるコト
名コトとコト破コト馭コト盧コト嶋コトとコト二コト神コト彼コト嶋コトとコト天コト降コトすコト也
則コト天コト獲コト身コトをコト嶋コト此コトとコト指コト立コトるコト國コト中コト此コト天コト柱コト
とコト一コト獲コトふコトをコト嶋コト此コトとコト指コト立コトるコト國コト中コト此コト天コト柱コト
産コト生コトとコト換コトりコト臨コト神コトにコト在コトりコト陽コト神コトにコト在コトりコト
思コトりコト以コト信コト神コト先コト唱コト曰コト喜コト哉コト可コト受コトのコト男コト子コト過コトぬコトとコト
陽コト神コト和コト曰コト喜コト哉コト可コト受コトのコト女コト子コト過コトぬコトとコト此コトとコト以コト吾コトにコト



是コト男コト子コト先コト唱コト曰コト喜コト哉コト可コト受コトのコト女コト子コト過コトぬコトとコト
事コト不コト祥コト然コトとコト一コトとコト夫コト婦コトとコト成コトてコト子コトをコト生コトんコトと
思コト石コト嶋コトとコト遠コト居コトるコト見コトをコト産コト臨コト一コト水コト極コト子コトとコト
夫コト一コト由コト之コト由コト若コト芦コト初コト入コト之コト流コト一コト棄コト臨コト上コト次コト
河コトをコト生コト臨コト上コト次コト海コトにコト行コトりコト是コト小コト子コト此コト列コト子コト入コト也
とコト是コト夫コト此コト状コトをコト天コト子コト上コトりコト臨コト以コトてコト奏コト聞コト何コト是コト天コト祖コト
以コト石コト嶋コトをコト婦コトとコト先コト唱コト曰コト喜コト哉コト可コト受コトのコト女コト子コト過コトぬコトとコト
とコト一コト改コトてコト降コト臨コト一コトとコトのコト仰コトみコトるコト復コト下コトりコト臨コト以コトてコト
一コト在コト陽コト神コトにコト在コトりコト陰コト神コトにコト在コトりコト國コト柱コトをコト分コト祀コトてコト
一コト而コト一コト於コト時コト子コト陽コト神コト先コト唱コト曰コト喜コト哉コト可コト受コトのコト女コト子コト過コトぬコトとコト

お女子何以地陽神 初て曰妍式可美少男何以
ぬ國之陽神信神子問て曰汝男子何の所也
不何り也對て曰吾男子一雌元の知何り陽神
の曰吾男子ま一雄元の知何り 吾男子の元知を
以事汝男子の元知子合らんま何り一女子を
めく事家の法を定めま何りま何りま何りま何り
子存んて先汝地陽神を生か何り大日本豊後
海州伊豫二名洲次信岐洲次佐後洲次筑紫
洲次を汝海州對馬洲
民於式云陸奥國は對國佐後國信岐國豊後國

對馬島在四國二島之邊要之

法社一覽の説
二島子地也

舊事記卷一奏之何古島謂天比登都柱

延佳
曰何

古ハ今を改之云法社非社
何改島條之を改

知名州之壹改陽

何之太
國府

拾芥州之壹改

民於式之壹改島下管之改石田

何者大禮之壹改國二郡四方一曰半

職原州之西海道注之壹改て之純を筑此

二島ハ壹改對多

又云九五二島を管之九五二島は
改を管するあり又之純を何れま

都督府筑前何り神大武以下の陸分二能二能二能六玉の三能の能
何れま九五二島の改を管何れま何り和漢之方國舎之能西又之都督府

國といふ説は一説一又皇の説もさうだ
右を政と名付一事一定の説をくしと
振くは傳たるを風土記を記する人考
おんたの悉く載ゆるありしに
傳き説は何れ凡古人の説より
かゞは我見識の至るをうたぐ
ども古蹟のなきを著し
吾武成をねん二之兼とするの
典の載るを考ら如此の御福何
の記をよおしと必悉く信
た

何れは只信をいふたぐふ
婦ぐ心算が美多此法を
南より信は多し事多し
之ぐ一は此れも附合
の言も又考らるる
按するは墓疏及
まげんとあるは
崎ゆり中岐の島と
たし一は古國を考
たし一は古國を考

や市々神一 菟野子古友府ゆりて九列ニ
と表座とまのりぢち一けまばを玉の名を
九國をいふべて筑紫と云ふ一と云ふ一或は管神
蓬萊のまを岐高と名付一よ一彼高の西ある
海中に小島有り一島にひし一是列ゆゆの
名原あり一宗武筑國の方面あり

恋一く一かと一高かんの島名原よまを
の花よ免るも此の事ゆり後きよ及んて浪
風よふ清きと一の一き一漱とあり一か生ひ後
もるよのまよ又高かんに使ひれく況んや

聖妻此花咲極く見え其心は清く昔
ありを在れ志くは色 倚る又之民たの
大道に在り立る性来ををまや 成務天皇の
神字より一の一必縣を分ち邑里を定給ふ
ゆきりその時の事よ六座七郷よりつとや
但神村にさしてゆりあんなを定り
そのの傍のありあり

日本書紀 成務天皇四年二月丙寅朔五日
曰我先皇大足彥天皇 聰明神武 膺命 録文 圖天
を治の人よ成ひ賊を撥ひ一や一しよ一りの徳覆意

二作ヒト一ナシツクル道造ヒト他ナシツクルを以てアノカ舊天章シタ土

王長ヒト子何ヒトよりヨロツノモノなるを以てイツクカヤスカラガシ後天何ヒト非得ヒト處今ヒト朕ヒト副ヒトて

室祚ヒトを踐りヒト夙夜ヒト兢惕ヒト然ヒトるヒト子ヒト梁元ヒト春ヒト神ヒト尔ヒト子ヒト

野心ヒトを懷ヒトめヒト夫ヒト是ヒトをヒト於ヒト子ヒト果長ヒトれヒトくヒト知ヒト免ヒト子ヒト首ヒト渠ヒト

あやしのあり自今ヒト以後ヒト因ヒト於ヒト子ヒト長ヒトをヒト立ヒトてヒト縣ヒト邑ヒト子ヒト

首ヒトをヒト多ヒトむヒト昂ヒト當ヒト國ヒトのヒト幹ヒト子ヒト者ヒトをヒト取ヒトるヒトをヒト玉ヒト乾ヒトの

首ヒトをヒト任ヒト一ヒト是ヒトをヒト中ヒト區ヒトのヒト滿ヒト屏ヒトとヒトりヒトよヒト五ヒト年ヒト秋ヒト日

諸ヒト國ヒト子ヒト令ヒト多ヒト以ヒトるヒト國ヒト於ヒト子ヒト造ヒト長ヒトをヒト立ヒトるヒト縣ヒト邑ヒト子ヒト福

至ヒトをヒト盡ヒトきヒト并ヒト措ヒト分ヒトをヒト賜ヒトてヒトもヒト表ヒトとヒトりヒト別ヒト山ヒト河ヒトを

隔ヒトるヒト國ヒト縣ヒトをヒト分ヒトちヒト阡陌ヒト此ヒトをヒト以ヒトるヒト邑ヒト里ヒトをヒト立ヒトち

因ヒト事ヒト東ヒト西ヒトをヒト以ヒトるヒト日ヒト縱ヒトとヒトりヒト南ヒト北ヒトをヒト日ヒト横ヒトとヒトりヒト山ヒト陽ヒトを

就ヒト西ヒトとヒトりヒト山ヒト陰ヒトをヒト背ヒト面ヒトとヒトりヒト是ヒトをヒト以ヒトるヒト百ヒト姓ヒト居ヒトをヒト安ヒトん

言ヒト天下ヒトをヒト事ヒト行ヒトりヒト在ヒト事ヒト社ヒト子ヒト大ヒト玉ヒト小ヒト國ヒトのヒト國ヒト造ヒトをヒト定ヒト賜ヒトふヒト又

按ヒト多ヒトるヒト國ヒト造ヒト本ヒト姓ヒト子ヒト檀ヒト原ヒトのヒト朝ヒト始ヒトてヒト國ヒト造ヒトをヒト立ヒトちヒトるヒト志ヒト願ヒト

為ヒト元ヒト德ヒトのヒト始ヒト子ヒトあヒトるヒト子ヒト國ヒト造ヒトをヒト立ヒトちヒトるヒト志ヒト願ヒトをヒト立ヒトち

四ヒト國ヒトをヒト任ヒトちヒトとヒトりヒト先ヒト則ヒト國ヒト縣ヒトをヒト分ヒトちヒトるヒト一ヒト何ヒトのヒト形ヒトとヒトりヒト七ヒト也

とヒトりヒト其ヒト名ヒトとヒトりヒト事ヒト多ヒトけヒト是ヒトはヒト此ヒト時ヒトをヒト立ヒトちヒトるヒト一ヒト只ヒト大

略ヒトのヒト事ヒト成ヒト了ヒト一ヒト國ヒトのヒト救ヒトもヒト多ヒトるヒト後ヒトのヒト世ヒトをヒト以ヒトりヒトてヒト漸ヒトく

分ヒトちヒトるヒト一ヒト六ヒト十ヒト八ヒト國ヒトをヒト定ヒトりヒト一ヒト六ヒト縣ヒト更ヒトにヒト縣ヒト邑ヒト里ヒトの

名ヒトはヒト後ヒト世ヒトをヒト以ヒトりヒト漸ヒトくヒトかヒトをヒトりヒト分ヒトちヒトるヒト一ヒト六ヒト縣ヒト邑ヒト里ヒトの

名ヒトはヒト後ヒト世ヒトをヒト以ヒトりヒト漸ヒトくヒトかヒトをヒトりヒト分ヒトちヒトるヒト一ヒト六ヒト縣ヒト邑ヒト里ヒトの

又姓氏係子坂合於大衆命此後あり 允恭
天皇レ御世子國境の標を造り其國多姓坂合於
連を賜ふ日本書紀 孝位天皇大化二年春
正月甲子朔朔正禮年と別新に改る此詔りを
宣事曰其一昔在天皇當此立る所の子代の氏
知くの此命及別長連傳造國造村首所造於曲
の氏當くの田莊を罷の仍事食封をゆふと大
まより以上おれ 其降仰り布帛を以て中人
百姓を賜ふこと志あ何皇又曰大吏の民を治りしる
所ありよ其治を罷せば則民に於て於る也

其其縁をなまあるり以て民のたのまあるる也
其二曰初々 京師を傳の畿内のみ自給自足
乍候防人 暁る傳るをなまし及冷契を造り山
河を定む凡京師ハ每防長人をなまし四防子令一人
をなまし戸口を按檢奸非を習察を掌る其坊
令坊内ハ明廉急直一其時勸子堪たるものを
取ら死よ里坊の長ハ其子里坊の百姓の法正施
幹者となりてあてよ中一當里坊子人あくる法
里坊子管司することゆも凡京内は東ハ名羅横
河より以來南ハ紀伊の兄山あり 以來西ハ赤石

をトテ諸國の界を定メ

戸令云凡郡を井里以下十六里以上を以テ大郡ト

謂ク井里以下十里以上を以テ中郡ト十里以下五里以上を以テ小郡ト

凡郡を以テ中郡ト四里以上を以テ小郡ト

凡郡を以テ小郡ト

凡郡を以テ小郡ト

凡郡を以テ小郡ト

凡郡を以テ小郡ト

凡郡を以テ小郡ト

凡郡を以テ小郡ト

凡郡を以テ小郡ト

凡郡を以テ小郡ト

凡郡を以テ小郡ト

凡郡を以テ小郡ト

凡郡を以テ小郡ト

凡郡を以テ小郡ト

凡郡を以テ小郡ト

凡郡を以テ小郡ト

凡郡を以テ小郡ト

凡郡を以テ小郡ト

凡郡を以テ小郡ト

凡郡を以テ小郡ト

凡郡を以テ小郡ト

凡郡を以テ小郡ト

凡郡を以テ小郡ト

西に後良法多良建迫門に限り天市を清明なり
烟霧あり時々ありぬ言齋も凡々見ぬ大津も也
ひやうに流れる南に初山の穀白鳥に限り野系族間
とてにあり北に山野つらありて草木枝葉繁
茂人家も皆に栄盛を結ぶ此小柳の鳥鳥にあり
東西三里二十所あり
荷麻村の田植現跡まき
後浦村の田出跡まき南に四里十
武所五十二間五尺
初山村の田いり
可成村の田いり國中浦後海
路十六里族五所一四十二間余田圍海途三十八里二
十七所十三有國の東をき岐と名付玉の西を石田
と名付四方に海を帯船津よく部田の山を頂

たきを良田豊饒なりと美産多く村新と
傳ふ如く又名所旧跡名産何れも一葉色也
別な清き流るるほど西海を望みし
西に西を
必好まぬ人いそりなり心はくくの云の良も
能く只してはるる月を過る事一色七のありし
み地古くありし勅使をきし一葉色は親家
陸系事何れも皆に老成候い多く此舟を
よとを羈旅のつとにわたりんと旅路ひし
りや彼系系集十下を夜高に到り智連宅
備思も鬼福かりかんてりける時一葉短歌

おろ山林の事をかくし侵掠の事しめり事
いふ所の有らん因事は其事を云はしめし
ゆら其の事古國高句麗小呂宋等
と云ふ事しめし事しめし事しめし
海下と定めてし理り然きともしめし
運漕の便りよけし此國の高志を
往來して有るを交易又京大坂の高志
此地の事りて貨財をあしめし事り又對馬
長崎の事りて美玉の物を賣り便りし
肥前對馬中島如來能阿の諸島の事り

其古物そのをりし事りし

國中田畠高

三代実徳之考政畠高田六百十六町

順和名村之考政畠高田六百二十町 國元万葉社様
村名同

海東諸島祀之畠田六百二十町 田令之段租額
二束三把考考

二年九月十日勅書三宣段畠充租額一束三把弘仁式之田二段地子
十束中田一段の束下田一段の束下り田一段之束

至稅式之考政對馬換田四十日不堪佃田三十日
賑給疾死並准不堪佃田

續日本紀 聖武天皇天平十七年十一月庚辰

制多々々法國の公辭大國四十万束上五十三

万石中国の十石米税中大隅薩摩五國の四万石
 下五万石米税中三國各三万石
 志摩五ヶ所米税各一萬石正税救の及カウキヨ背奉ウチカヒヤゲ
 せざるもの何れも必は限りて然るも官物欠負米
 納のたぐひを以て格一の支中事をゆるぎて
 又諸國を以ては行の所を停止せしむ
 正税式之を改當正税一萬石米二解五萬石米
 理地溝新五石米救急新二萬石天子の款の田を正税
とす其の下の田
米救急新二萬石米
行の所は九萬石米
の正一萬石米の米
現米四万石米なり

和名勅之を改當正税一萬石米二解五萬石米
 額九萬石米雜額二萬石米正税一萬石米二解五
萬石米額九萬石米雜額
二萬石米米七萬石米
現米四万石米なり
 正計式之を改當調大豆十三解小豆十一解小麦
 廿解二斗自條の海石桐油蔴穀を輸せ是を
 改國一年此中賣納り古の賦租かくの法に中葉
 足利將軍が治むの時田の林徳を三分ありて
 其一を收税し餘は米とて豊長長考其公
 子孫りて田の林徳を三分ありて其二を土貢と
 する(米を)一を農米の所得と定む其外

石七斗六升内所集原高六百四十九石是斗四合内
開祭高八百九十七石六斗五升六合

新成色水田五十三所六反是畝九七步是高九百

六十四石五斗三升六合大田四十九所七反是畝

十步半高三百九十二畝四斗六升六合田畑合一百三

所三反三畝一斗高一斗或百一斗七石或斗四合内

所集原高六百九十七石四斗四合内開祭高五百

百九十九石九斗一升

箱崎色水田七十七所七反或畝九七步是高一斗

四百一石一斗大田一百十五所或反八畝十五步

高六百一十七石或斗三升是合内田畑合一百九十三

所是畝十是步高或一斗七石三斗三升是合内

所集原高一斗五石四斗是畝四斗或斗或合内

祭高五百六十五石一斗一升六合

本宮色水田四十七所四畝九步是八百六石是斗

五升七合大田四十二所六反九畝九步是二百三斗

是石三斗九升三合田畑合九十九所七反四畝七步

高一斗三十七石五斗五升内所集原高七百七十

六石六斗三升六合内開祭高或百六十九斗一

升六合

布島邑水田二十三所 壹反七九步半高五百、
九十三石壹斗九升一四合大田十三所 四反五畝三歩
半高一百五十六石七升四合田畑合五十六所 五反
六畝三歩半高七百四十九石二斗六升八合内計米
一石高五百四十七石七斗壹升内開田高或百
壹石五斗五升八合

國分邑水田四十壹所 壹反高六百半一石四斗八升
大田三十四所 四反或畝壹歩高二百五石三斗六升八合
田畑合七十四所 六反七畝九歩高八百一十六石
九斗七升九合内計米一石高五百六十九石四斗七合

同開田高五百五十七石九斗三升或合
中ノ郷邑水田二十七所 二反三畝九歩高九百七
十八石或斗七升壹合大田六十或所七畝四歩高
四百一或石九斗四升九合田畑合九十九所 四
反十四歩高一千四百壹石或斗或升内計米
一石高六百六十五石九斗壹升壹合同開田高
七百三十五石三斗九合
川北邑水田三十四所 五反壹畝十歩高七百廿
四石六斗七升或合大田四十三所 一反或畝十二歩
高或百九十八石三斗壹升壹合同畑合七十八所

三反四畝高一子廿貳石九斗八升三合内泔米
不高三百七十石五斗四升貳合内開發高六
百五十九石四斗五升貳合

諸君邑水田五十畝所四反貳畝九步高一子一百
一十壹石一斗九升貳合火田一百三十九所六反
七畝三歩高一子一百十四石六斗壹合畑畑合一百
九十畝所九畝十二歩高二子貳百九十六石四斗九升
三合内泔米中高一子貳百四十壹石貳升八合
内開發高一子五十五石四斗六升五合

深江邑水田三十八所三反七畝一十七歩半高七石六
十石一斗貳升六合火田四十五所三反三畝十二歩
高三百貳石四斗七合畑畑合一十三町七反五畝九
歩半高一子六十三石貳斗三升六合内泔米中為
六百十五石六斗壹升貳合内開發高四百四十
七石六斗貳升五合

湯無家邑水田四十八所五畝廿貳歩半高一子五十六
石三斗五升七合火田五十四所五反五畝廿九歩半
高貳百四十八石貳斗八升九合畑畑合一百貳所
六反三畝一十貳歩高一子三百四石六斗四升六合内
泔米中為九百三十三石壹斗三升貳合内開發

武生水色水田四十畝所是反是畝堆九步半高
八百九十六石是休六合七田一百三十畝所七反八畝
十五步半高八百三十七石是休計畝計是合田畑合
一百~~百~~四所九反於五步高一子七百三十三石是休
三升七合内御計是休九百九十六升四升四合
同開發高八百三十三石四升九中三合

淡良色水田拾四所九反畝或步高三百十石
六斗九升四合大田一百十八所七反三畝是步半高
九百三十六石三斗九升田畑合一百四十三所六反
五畝三升半高一子或百四十八石以半田合内御計
是休五百廿石三斗八升七合内御計是休五百廿
七石六斗九升七合

半城色水田或十八所是反畝或廿是步半高
六百廿六石五斗四升七合大田七十是所或反
是畝十三步高四百九十五石或斗三升九合田
畑合九十九所三反四畝四步半高一子一百十石
反七斗八升六合内御計是休五百三十七石四斗
九合内御計是休五百三十七石三斗七升七合
物部色水田亦十三所九反八畝六步高一子三百
七十五石是休六合大田五十所四反是畝廿六步

高貳百四十九石貳斗四合田畑合一百十四所四
反貳步高一千六百十四石貳斗三升母泔兼印
高一千三百三十三石五斗貳升三合田開發高
貳百九十石六斗九合

長嶺邑水田貳十六町六反五畝廿貳步高五百
六十六石七斗貳升四合火田六十九町四反五畝
廿五步高五百三石四斗貳升田畑合九十六所三
反壹畝十七步高一千七十七石貳斗三升四合田泔
兼印高七百五十五石五斗六升田開發高
三百十石三斗六升四合

黒崎邑水田十八町五反五畝十貳步高三百九
十六石八斗九合火田七千七町三反九畝十五步高五
百九十壹石貳斗九升七合田畑合九千五所九反
五畝七步高九百八十八石貳斗六合田泔兼印高
貳百六十六石七斗八合田開發高七百五十五石
九斗八合

筒城邑水田廿八町八反三畝七步高六百四十六石
八斗九升六合火田六千貳町八反七畝高四百五
十八石八斗六升五合田畑合九十壹所五反七步高
一千一百五十七石六升壹合田泔兼印高四百

八十石石六斗七升五合同家為六百十六石
八升六合

石田色水田四十七所或反冬取十八步半為九百
四十石石五斗八升六合大田一百三十七所或反三畝
或步半為九百五十八石或斗五升 田畑合一百八
十四所三反四畝一冬步為一子八百九十九石七斗九
升或合四升半平為七百六十石石五斗六升或
合同家為一子一百三十七石或斗三升

池田色水田六十所或反冬取或步為一子六十
七石或斗或升或合冬田七十所或反八畝或步

高三百七十四石三升九合田畑合一百三十六所七反
十四步為一子四百四十石或斗六升或合四升
半平為六百九十三石四斗九升三合同家為
七百四十七石六斗六升八合

志原色水田五十六所或反冬取十八步半為一子一百
八十六石或斗七升五合冬田一百三所或反冬取
十三步高六百一十石七斗三升田畑合一百五十九
所七反九畝十冬步或高一子八百一十石或石冬冬田
畑合平為一子廿七石八斗八升七合同家為
七百一十四石或斗五升四合

以上右田郡

上件田畠石高 享保五年十二月所改也

殿別石高

村位五段 上村 上村 中村 下村 下村

田位五段 上田 上田 中田 下田 下田

一版高 上田 二石 上田 二石 中田 二石

下田 五石 下田 五石 下田 五石

畠位六段 上畠 上畠 中畠 下畠

一版高 下畠 三下畠 上畠 五石 中畠 五石

中畠 九斗 下畠 七斗

下畠 五斗 五斗 三下畠 三斗 五斗

切畠位五段 上畠 中畠 下畠 下畠

三下畠 三下畠 上畠 五斗 六合 中畠 五斗 四合

一版高 下畠 五斗 六合 下畠 五斗

三下畠 八合 上畠 五斗

田毛 五斗 上畠 五斗

中畠 八合 下六合

上畠 五斗

中畠 八合

下六合

下四分

國中民戸數 寛政十年授正ノ帝不斗也
諸士給人ノ家除

内

可決色家數三百五拾八軒

新誠色家數百七拾八軒

箱崎色家數四百貳拾五軒

本宮色家數百五拾四軒

布象色家數百拾三軒

國分色家數百貳拾五軒

中野郷色家數百六拾八軒

川北色家數百貳拾八軒

諸古色家數四百三拾軒

深江色家數百四拾貳軒

湯尾色家數百七拾五軒

立不色家數百貳拾九軒

仁左色家數百貳拾四軒

初山色家數百九拾軒

武生色家數三百三軒

深良色家數三百八拾五軒

本成色家数百三拾五軒
物部色家数百三拾五軒
長原色家数百七拾五軒
黒崎色家数百六拾七軒
尚城色家数百七拾四軒
石田色家数百五拾九軒
池田色家数百八拾五軒
志原色家数百三拾八軒
郷野浦家数百七拾七軒
安良浦家数百拾貳軒

湯野浦家数六拾九軒
勝古浦家数百七拾四軒
瀬戸浦家数百五拾八軒
芦屋浦家数百九拾
小幡浦家数百四拾
原通古浦家数百三拾貳軒
國中人数 寛政十年校回の時不才也
但該士族人の家内係
國中人数凡貳万七千七百四拾九人

男老翁四子六百八人

女老弟或子百以拉八人

社人五於八人

僧百於於八人

山伏九人

神子四人

信陽所於八人

在院或於三人

念佛坊六人

此由

深良邑人教子九百五人

内男子四人女百八拾七人社人三人僧九人

信陽所或人

本城邑人教四百七拾八人

内男或百子於三人女或百於八人社人教人僧

三人信陽所或人

相於邑人教子百拾九人

内男或百七拾六人女或百三拾八人社人教人

僧四人

住左邑人教四百八拾五人

内男或百六拾五人女或百拾六人社人教人

僧三人

長嚴色人教古百三控六人

因男三百九控六人女三百三控三人社人武人

僧五人

黑崎色人教古百五控三人

因男三百九控三人女三百五控六人社人武人

僧或人

立石色人教古百三控四人

因男或百六控八人女或百五控五人社人武人

僧五人陰陽河五人社或三人

柳家色人教古百七控三人

因男或百控或八人女百五控八人社人武人

僧或人

由家色人教古百五控六人

因男三百九控八人女三百六控八人社人武人僧

口人陰陽河五人

可原色人教古百或控或人

因男子人女九百三人社人武人僧或五人陰陽

師三人陰陽河五人神子或人武佛坊五人

新成色人教古百或控或人

内男三百九拾人 女三百貳拾人 社人四人
僧五人

柴崎邑人 教子百六拾人

内男百九拾九人 女七百六人 社人一人 僧六人
人 住持三人

國分邑人 教子百八人

内男貳百貳拾人 女百八拾人 社人一人
僧三人

中野郷邑人 教子百拾人

内男三百五拾人 女貳百五拾三人 社人三人

内男三人 住持一人

祐吉邑人 教子百七拾九人

内男百五拾三人 女百三人 社人五人 僧一人
山伏三人 住持一人 社人一人 住持一人

川北邑人 教子百八拾人

内男貳百三拾九人 女貳百三人 社人一人 僧一人
社人 住持三人

湯島邑人 教子百貳拾人

内男三百九拾九人 女貳百八拾人 社人一人
僧五人 住持一人

深江邑人教子百子人

内男百子人教子百子人 社人

僧七人

皆林邑人教子百子人

内男百子人教子百子人 社人

山伏七人 僧七人

石田邑人教子百子人

内男百子人教子百子人 社人

僧七人 神子七人 僧七人

池田邑人教子百子人

内男百子人教子百子人 社人

五人

志原邑人教子百子人

内男百子人教子百子人 社人

僧六人 僧七人 僧七人

初山邑人教子百子人

内男百子人教子百子人 社人

僧七人 僧七人

武生水邑人教子百子人

内男百子人教子百子人 社人

人神子差人

御野浦人教九子三孫三人

内男四子八孫六人女四子七孫七人

淡良浦人教六子或孫七人

内男三子八人女三子孫八人

陽野浦人教三子六人

内男五子孫七人女五子孫五人

勝牟浦人教子六子孫九人

内男八子或孫三人女七子孫六人

淡戶浦人教七子六孫九人

内男三子九孫九人女三子七孫八人陰野河三人

菅野浦人教子三孫五人

内男五子或孫六人女四子孫九人

八幡浦人教子五孫九人

内男或子七孫七人女或子或孫六人陰野河人

平通寺浦人教子百七人

内男五子六孫八人女子五子孫三人

國中恒家敷

寛政十年授西時不計也

國中恒家月三孫八人

也

郷野浦河家五軒

深良浦河家貳軒

湯野浦河家三軒

勝中浦河家拾壹軒

能戸浦河家三軒

芦屋浦河家七軒

市道寺浦河家七軒

國中鞠家數

寛政十年檢正時宗計也

國中鞠家凡三拾七軒

郷野浦鞠家七軒

深良浦鞠家貳軒

湯野浦鞠家三軒

勝中浦鞠家六軒

能戸浦鞠家三軒

芦屋浦鞠家八軒

市道寺浦鞠家拾貳軒

國中神社

國中神社凡八百三拾六社

也

本社に接載

東社七十九社に接

此目

可成色中社三社 東社に接七社

新成色中社四社 二社 東社に接九社

築崎色中社三社 或日 東社に接八社

中京色中社二社 或日 東社に接七社

常陸色中社三社 或日 東社に接四社

國分色中社三社 或日 東社に接三社

中野色中社三社 東社に接三社

川水色中社三社 或日 東社に接三社

赤松色中社三社 或日 東社に接三社

深江色中社三社 東社に接三社

湯島色中社三社 或日 東社に接三社

赤名色中社三社 或日 東社に接三社

信原色中社三社 或日 東社に接三社

以上三社

初山色中社三社 或日 東社に接三社

武生色中社三社 或日 東社に接三社

依良色中社三社 或日 東社に接三社

半城邑本社武座武座末社三十七座
 物部邑本社三座武座末社武座二座
 長嶺邑本社武座武座末社四座
 果崎邑本社武座武座末社武座
 筒城邑本社武座武座末社九座
 石田邑本社武座武座末社四拾九座
 池田邑本社武座武座末社拾九座
 志原邑本社武座武座末社三拾武座
 以上石田郡
 延喜式册三方名神祭二百八十五座 中略 住吉神

社武座兵主神社武座月讀神社武座中津
 神社武座天手長男神神社武座天手長比賣神
 社武座以上武座中略 武座別絶五尺綿一屯線一綯五色
 薄絶各五尺末綿二面麻五面裏杉薦廿枚若
 大請何志、絶五丈五尺七加巾布一端七以線一綯代
 同武座十神名帳下之 中略
 武座島廿四座 大七座 小十七座
 武座郡十三座 大四座 小八座
 水神社
 住吉神社 名神 大
 何多弥神社
 兵主神社 名神 大

月讀神社名神大

國府主神社

高津祖神社

手長比賣神社

同佐津布都神社

同佐津布都神社

中津神社名神大

角上神社

石田郡十二座大三座 十九座

天日長男神社名神大

天日長比賣神社名神大

弥保支刀神社

國津神社

海神社大

津神社

与神社

大國玉神社

尔自神社

見上神社

國津意加美神社 物部布都社

神明品書云、西海の波上蓬萊一波島也、或百

二十余社の神祇、冥道一の津ツツ、子初法中、高天

神七社の神明、國府子名指大明神、香指子聖

母大明神、大十宮子八幡宮、海子海ウミ、八幡國府子天

満大自在天神、住吉四所大明神、角城子八幡大

名神、与初法中、子乙宮、左右所、加賀白山

三河權現、淡王十二所權現、上海神、上海神、大塩

津、山塩津山所神、夕釣子乙宮、所、善宮、四所

大明神、截初法中、石田子乙宮、老松天神、志自

岐古所、潮畏のり、古所、今宮六所、権現、苦宮四所、
大明神、老松大明神と、掛初詣中、河北日吉山玉
木船大明神、神石天保、佐立社大明神、三山
三沼権現、清吉土所、権現、小島三沼権現、本山志
願大明神、天満大自在天神、今早の、鮎馬の、神
栲田の、山王の、社豊の、住吉大百許、安云社、権現
瀬戸木船女岳、田の、岳平江、栲山乙、宮清前と、然初
詣中、唐田の、天神、新の、苦宮四所、大明神、神
岳三沼、権現、栲本、瀨島の、苦宮大明神、幸凡、幸
子、平福大明神、三沼の、三八幡、志願大明神、大宮

田名河大明神、神嶽の、二所、権現の、やく大明神、
布氣の、天神、布代の、十二所、権現、大社と、掛初詣
中、小牧の、八龍、天道、尾崎の、牧大明神、山清神乙
宮、河前の、有安の、東以、有安大明神、高年、権現、都乃
加、大明神、長の、天満大自在天神、野志、梅養
母七段の、掛初詣中、長川の、妙見三所、伊双、氏の
天満大自在天神、立石、轉神、山の河前、山位、天
満天神、伊賀、多々、老山、三所、権現、喜田の、苦宮
四所、大明神、年方の、老松天神、森、佐、坂の、妙見
清津の、八幡、大浦の、塩津、大明神、柳田の、住吉

四河大明神八幡宝満天神田中子苦宮四河
明神播宮立社大明神住連尾矢保佐寺所
及之哉初法系お幼の所庄子祝堂大神、庄乃
岬子青波賀大明神天道御守大明神海子
三島大明神御浦子如志大明神乙宮比奈海
田子老松天神殿川子山浦觀現武生水子妙
見三河糸尾大明神小鉢子、今宮八幡長白
志日波寺所片石子安方天本居子巖高大明
明神御崎大明神之哉初法系望崎子牧大
明神梅津子山所神津浦子小水乙宮然者

大明神初山子八幡宝満天神志日波寺所
乙宮所前鏡岳三河權現替子北山之河權現
久壽子一^{イナ}早^{イナ}古所前之哉初法系志日波寺
山三河權現大石寺子三河權現有田子岳山十
三河權現長野子椿山岳子見之大明神此系子
東銘鈕大明神田原子天満大自在天神村山
子木船大明神池田子寺所建見少所呂子田沼
大明神津宮嘉勢津荒水河上天満宮子鳥
家^{イナ}寺^{イナ}之哉初法系射寺寺子苦宮^{イナ}大明
神向坂子立社大明神向玉子古儀八幡湯岳

子妙見系水より山、御神年より久大玉推木大明
神流より比賣大明神の賀々より今宮八幡祇園
宮佐渡妙見庵より若宮四所大明神丁より
花玉十二庚涼江、河より祇比賣大明神、延守
大明神ハ就大明神、軍越神、武勅、伝、守
右神の系書の記ハ大十国古末祝の系より
傳來せるの書より、その奥より元龜三年
壬申三月、平田宮子代ハ云字する、ある由を
裁き又此化より祇比賣所の神社の号近世の祇
遠より、のさより、比賣、は、神社の部、係、見、多、し、

國中佛刹

國中寺院凡三百七拾ハケ所

内

本寺五箇寺

末寺百四十三箇寺

末堂貳百二十々箇堂

修験九箇坊

内

可成邑末寺七箇寺末堂十七箇堂

新城邑大十寺一箇寺真言末寺十箇寺末堂八箇堂

箱崎邑末寺六箇寺末堂十箇堂
本宮邑末寺四箇寺末堂七箇堂
布氣邑末寺二箇寺末堂七箇堂
岡分邑末寺四箇寺末堂六箇堂
中野分邑末寺三箇寺禪宗末寺或箇寺末堂六箇堂
川北邑末寺四箇寺末堂八箇堂
法若邑末寺一箇寺禪宗末寺九箇寺末堂
十六箇堂修殘四坊
深江邑末寺一箇寺禪宗末寺二箇寺末堂六箇堂
湯岳邑末寺五箇寺末堂六箇堂

立石邑末寺十一箇寺末堂十八箇堂
住吉邑末寺三箇寺末堂十二箇堂

乙上寺及郡

初山邑末寺四箇寺末堂三箇堂
茂生水邑末寺一箇寺禪宗末寺十七箇寺末
堂十五箇堂
波良邑末寺八箇寺末堂十箇堂
半城邑末寺五箇寺末堂九箇堂
物初邑末寺八箇寺末堂四箇堂
長瀬邑末寺五箇寺末堂十箇堂

高野邑末寺二箇寺末堂七箇堂
 尚城邑末寺三箇寺末堂三箇堂修護寺坊
 石田邑末寺八箇寺末堂八箇堂
 池田邑末寺三箇寺末堂六箇堂修護寺坊
 志原邑末寺六箇寺末堂十三箇堂
 己上石田郡

國中神社知行高

國中神社知行高四拾二石五斗

内

高野石 湯岳村 真神社

高野石	國分村	國片主神社
高野石	箱崎村	八幡宮
高野石	可成村	聖母大明神
高野石	新城村	若宮大明神
高野石	本宮村	八幡宮
高野石	清吉村	高野社神社
高野石	源口村	深江大明神
高野石	住吉村	住吉神社
高野石	中野野心	流八幡宮
高野石	湯岳村	妙見宮

高寺石

高貳石 新田

乙上壹岐郡

高拾石

高貳石

高貳石

高貳石

高貳石

高寺石

高寺石三斗

立石村

熊野権現

清吉村

八幡宮

加部邑

手長男神社

民生水村

国津意加美神社

肖城村

八幡宮

浸石村

国津神社

初山村

鏡岳三所権現

長嶺村

天満宮

玉河村

天道宮

高貳石

乙上石田郡

国中寺以高

国中寺傾地高貳石之拾九石四斗之半

内

高百石

米四石三斗六升

高三拾石 内女石新田

高拾石

高五石

民生水村

市原

浮江村

安国寺

中野新村

右同寺

落吉村

国分寺

湯岳村

妙泉寺

定光寺

高貳石

高三石

高拾石 新田

高貳拾石

高拾石

高拾石

高拾石

高貳拾石

高伍石

高伍石

四分村

觀音寺

四分村

多福寺

國分村

阿弥陀寺

新城村

神岳山

新城村

金藏寺

可次村

神皇寺

清吉村

龍苑寺

清吉村

天德寺

立石村

觀世音寺

立石村

覺音寺

本宮村

宗蓮院

崩崎村

長德寺

己上石田郡

茂生水村

花光寺

茂生水村

長泉寺

茂生水村

宝樹庵

長峯村

古溪寺

志原村

石動堂

高貳石

高貳石

高貳石

高伍石

高拾石

高貳石

高貳石

己上石田郡

國中馬數并本數

寛政十年檢三ノ時
石田ノ

國中馬數惣高凡貳拾廿疋

内田

住吉邑馬廿疋

立石邑馬廿疋

布氣邑馬廿疋

本宮邑馬三疋

可次邑馬廿疋

新城邑馬貳疋

箱崎邑馬廿疋

國分邑馬貳疋

中野々邑馬貳疋

緒吉邑馬貳疋

勝太浦馬廿疋

乙上々改郡

比田邑馬廿疋

初山邑馬廿疋

民生水邑馬貳疋

物初邑馬廿疋

長原邑馬廿疋

魚崎邑馬廿疋

天德寺

興光寺

...

...

...

...

...

...

...

御野浦馬牛是

己上石田

國中牛數惣高凡七千貳百六拾七是

内

住吉邑牛八拾是

立石邑牛貳百拾是

布氣邑牛百六拾是

本宮邑牛貳百三拾是

可須邑牛六百是

新城邑牛二百拾是

箱崎邑牛六百拾是

因分邑牛貳百拾是

中野邑牛二百是

緒吉邑牛百五拾是

川北邑牛百五拾是

深江邑牛百四拾是

湯岳邑牛貳百四拾是

勝本浦牛拾是

瀬戸浦牛八拾是

芦辺浦牛四是

八幡浦牛貳拾八疋

已上左波郡

波良邑牛四疋八疋

半城邑牛百四拾疋

初初邑牛百七拾疋

長流邑牛百九拾疋

黒崎邑牛貳百五疋

筒城邑牛貳百七拾疋

石田邑牛貳百七拾疋

比田邑牛貳百三拾疋

志原邑牛四百八拾疋

初山邑牛三百八拾疋

武生水邑牛四百三拾疋

新野浦牛三拾貳疋

波良浦牛四拾八疋

印通寺浦牛三拾五疋

已上石田郡

本國中船數

寛政十年校了時
以舟よりあり

國中船數大小惣高凡三百七拾三艘

大船拾八及帆以下
拾及帆以上小船及

帆以下四及
帆以上之

内

立石邑傳通松貳艘
本宮邑傳通松貳艘
可次邑傳通船拾艘
箱崎邑傳通船五艘
國分邑傳通松壹艘
諸吉邑傳通船五艘
川北邑傳通松壹艘
深江邑傳通松貳艘
湯野浦大船拾四艘松三艘

勝本浦大松拾艘松拾艘傳通松貳拾三艘
傳百松貳拾四艘
瀬戸浦小松貳艘傳通船貳拾貳艘傳百松六艘
芦辺浦大松貳艘松拾九艘傳通松貳拾七艘
八幡浦小船拾八艘傳通船拾七艘
己上松波郡
渡良邑傳通船八艘
半城邑傳通松四艘

黒崎邑傳廻船五艘

石田邑傳廻船五艘

初山村傳廻船八艘

茂生水邑傳廻船三艘

郷孫浦小船拾五艘傳廻船拾三艘

波良浦小船五艘傳廻船四拾八艘

寺通寺浦大船拾五艘小船拾艘傳廻船九

拾五艘

己上石田郡

國門烽火候

仁明紀承和二年三月己未太宰府云云波良浦

海中ノ居一ト地勢險峻なり人数密少

トモ機急トモ之難一頃年新羅の商人来リ

竊ふ事多クモ防人ト云ク子ウクモモ防人

地多ク海ノむ清ふ島の倭人三百三十人云云

昔一十四但此要害の地ト云リ一ム許し給

天智紀三年乞風討了島を波良島筑紫の國

等不防了防と烽火ト云

聖武紀天智九年九月癸酉筑紫此防人を傳

下本綱母一筑紫の人と云を

討つるを成りしむ

清和紀貞観十二年二月十二日甲午乞ふは先
太宰府之肥前國杵嶋郡之唐原表初し鼓鳴
事之不善人この道と著書と毎に改まるは清和と
致すを命じし乞日初し一と撰り紀實を討つ
等此國急としそ不慮と戒愆せしむ
延喜式云初者本元を討つる此所人府官等
事所初法國百姓の強健老と云しそ書を他
りちしむ
云波手隘云岳越番ある立り十七町七石

峯手高海陸より百貳百四尺余

岳は石田郡
初山村あり 峯宮嶋

番町おろし麻より三町五十石峯手高海陸より

五十石あり

若宮島と波那
可以甘有り

初隘云岳越遠見番以岳の高九指五同を尺五寸

氏生小村在成あり行程拾七町廿八百廿番町

番頭の侍を人足怪世成人あり勤番し一町

子侍小若宮島遠見番以番取番足怪等岳

越番町同し氏具并番取等あり

行程

延喜式云行式云波手海陸行程三日

倭漢三國圖會云凡本より江守に至る海陸二百三十里半陸紀前名渡海あり、至る十二里、乾對多府中より至る海上四十八里、辰の方以後、若博多府至り二十八里、南紀前平戸島より至る十三里、東方より久島より至る十里、
日本麻子云云、波國江守より海陸二百三十三里十四町

己上他郡へのゆり

武生山村甲より江守浦迄三町五十石、物山村より武生山四町、坪浦より廿七町、半城村より

武生山後良村より武生山十二町、物山村より武生山八町、武生山村より二十町、岳ヶ越より十七町、廿八石、橋本浦より二里十四町、若邊浦より二里五町、寺浦より武生山廿九町、湯本浦より二里九町、十石、八橋浦より三里八町、武生山後良村甲より半城村より武生山廿四町、後良高宮浦より二町、武生山浦より十四町、大島より海上三十八町、長島より海上四十八町、系島より海上三十三町、若博多浦より四里廿町、半城村甲より物山村より廿町、武生山後良村より

住吉村
の四名

十九町 長原村と廿町 十町 大浦と四

八町 津津浦と十三町 廿町 猪ヶ浦と三里

お初村甲より 鯨伏村と十九町 廿町 湯岳村と

廿七町 廿町 志系村と廿六町

住吉村甲より 国分村と就拾四町 立石村と二拾六

町 四十町 長原村と就拾五町 十七町 茂生

村と三里之町 猪ヶ浦と就里十三町

長原村甲より 玉湯村と廿町 立石村と二

町 茂生水村と三里 就拾町 海曲と十七町

就拾町

黒崎村甲より 茂生水村と就里余湯と浦と海

上十七町 三拾町 立石村と三里 湯川口

と三里 五拾町 石浜と海上 就拾町

立石村甲より 国分村と三里 就拾町 存

氣村と拾四町 二町 湯中浦と十三町 茂生

と三里 猪ヶ浦と三里 三拾町 湯中浦

と二町 半

存 氣村甲より 本宮村と拾四町 国分村と就

拾二町 茂生水村と就里 就拾町 猪ヶ浦と

三里之町

可次村甲より新城村と拾七町茂生水村と三里
八町勝本浦と拾貳町八勝本浦より善宮
島と海上拾貳町

新城村甲より箱崎村と拾九町廿百國分村と
寺里七町茂生水村と三里勝本浦
と貳拾九町

箱崎村甲より新戸浦と寺里國分村と寺里
貳拾百茂生水村と三里拾八町勝本浦と
寺里拾貳町貳拾百

清吉村甲より芦田浦と拾三町八勝本浦と三拾三
町川北村と貳拾五町中々村と三拾町茂生
水村と三里

川北村甲より中々村と三拾町拾五町深江村と
拾八町湯岳村と拾九町今里と貳拾三町
茂生水村と寺里三拾四町貳拾百

中之郷村甲より國分村と拾四町三拾百湯岳
村と貳拾三町茂生水村と貳里

國分村甲より湯岳村と貳拾三町茂生水村と貳
里湯本浦と寺里五町勝本浦と貳里
湯岳村甲より深江村と拾八町茂生水村と寺

新里招五所或招百搦本浦と或里或招五所

深江村甲より角城村と或拾町五石田村と

或拾町多通寺浦と或拾町池田村と或

拾三町茂生小村と或里三招三所或招百

角城村甲より石田村と拾三町多通寺浦と

或招或町池田村と二招町茂生小村と或里

多町本搦本浦と二里十八町

石田村甲より多通寺浦と八町池田村と招八町

茂生小村と或里或拾或町本搦本浦と三

里拾八町

池田村甲より湯岳村と或招八町本搦本浦と

二招四町志系村と招四町本茂生小村と

或里七町本搦本浦と二里招四町

志系村甲より湯岳村と或招六町初山村と或

里招町茂生小村と三招町本搦本浦と三里

或招五所

初山村甲より茂生小村と或里四町被瀬浦と

招八町埴浦と海上五町本搦本浦と四里

或招多町本搦本浦と二町江野浦と海上或里

埴浦と陸或招七町

已上初終了截る不同中村ノ行程

河野浦高札場より民生水止七町或指百

民生水止の次よりお初る次と或指或町四指

昔お初る次より録伏る次止指五町五指

録伏る次より布氣る次と或指五町或指

七日布氣る次より橋本浦高札場止る

里或指五町又指三町都合行程三里或指町五

民生水より志系る次と或指五町或指五町志系

る次より湯岳る次と或指五町或指五町湯

岳る次より川北る次と指五町或指八町川北

舟る次より徳吉る次と指七町三指昔徳吉

る次より芦辺止指五町四指七日都合行程

程或里或指五町或指百

民生水より志系る次と或指六町或指昔志

系る次より湯岳る次と或指五町或指五

町湯岳る次より深江止指五町五指四町

都合行程五里或指七町三指昔

已上本道行程

民生水より湯岳止る里或指或町或指志系止

三指三町或指五町福山迄五里止る或指五

石渡良正寺里或町寺多半城と二招或町
招百長原と寺里招八町五招九町物部と
三招町三招町

後良寺宮浦と五町四招寺半城より長原と
或招町四招八町

長原より物部と或招寺町四招寺
物部より縁伏と或招三町九町

縁伏より国分と或招寺立石と三招或町
五招或百長原と三招町三招八町

長原より尾湯と或招町四招百
立石より湯と本と四町二町布氣と招五町

五招三町

布氣より湯と浦と五町招百本宮と招六
町三招五町

本宮より可成と寺里四町三招或町
可成より猪本と招四町三招寺新城と招九町

五招三町

新城より岩崎と招九町三招或町
岩崎より瀬戸と三招四町五招百国分と寺里
或町或招或町

国分より中々と招四町五招三町

中々より諸吉と或招九町四招八町湯岳と
或招七町八町

志吉より芦多と招或町四招六町八幡と三招
五町或招五町川北と招八町五招

川北より湯岳と招五町四町深江と招三町五招
四町

湯岳より相形と或招九町四招或百深江と招六
町招五町

深江より池田と或招三町五招八町石田と或招

七町尚城と或招五町四招五町通与浦と或
招五町三招四町

尚城より石田と招五町招五町
石田より通与浦と招五町五招九町池田と或招

五町五招八町
池田より通与浦と招八町招三町志系と招五

町招五町
志系より初山と志系里招五町招五町

初山より坪と三招四町或招八町
己上村次道行程右左の分限帳に或る所

新野浦より波良浦と三里湯ノ浦と四里待本
浦と五里半瀬戸浦と七里八幡浦と五里半
平通古浦と三里
波良浦より湯ノ浦と三里半待本浦と五里瀬
戸浦と七里半辺浦と七里八幡浦と五里印
通守浦と三里

湯ノ浦より待本浦と五里瀬戸浦と五里半
多浦と五里八幡浦と五里平通寺浦と七
里

待本浦より瀬戸浦と三里半辺浦と三里八幡

浦と四里平通古浦と五里

瀬戸浦より半多浦と招四可八幡浦と五里

半平通古浦と三里半

八幡浦より平通寺浦と五里

平通古浦より夕ノ浦と三里

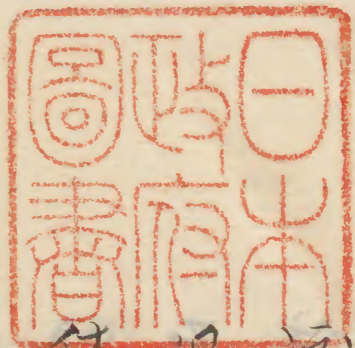
瀬戸浦より少呂嶋と七里

八幡浦より名島と三里

平通寺浦より妻ヶ島と七可

待本浦より若宮島と招四可

乙上郡燈ノ裁ノ浦ノ海行程



御野浦より後良浦迄貳拾五町 四拾貳町

後良浦より湯之本浦迄三里貳拾五町

湯之本浦より持太浦迄三里三拾五町

持太浦より瀬戸浦迄三里拾五町

瀬戸浦より芦色浦迄拾五町

芦色浦より八幡浦迄五里貳拾五町

八幡浦より石通ち浦迄貳里三拾五町

石通ち浦より御野浦迄三里三拾五町

御野浦より分限峠迄五里三拾五町

分限峠より船泊の行程より一里拾五町 四拾貳町



